

日本簿記学会ニュース

No. 36:12 / 2003

《大会・部会の経過報告》

第19回関東部会は平成15年6月21日(土)に早稲田大学(準備委員長:長谷川茂氏)にて、第19回全国大会は平成15年8月29日(金)から31日(日)に高崎商科大学(準備委員長:荻野雅司氏)にて、各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記および大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第20回関西部会は平成16年5月22日(土)に帝塚山大学(準備委員長:平林喜博氏)にて、第20回関東部会は平成16年6月26日(土)に東京経済大学にて、第20回全国大会は、平成16年8月28日(土)、29日(日)に岡山商科大学にて、各々開催される予定です。

《第19回全国大会正会員出席者状況》

第19回全国大会への正会員の出席者の状況は以下のとおりでした。

	全 体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	212名	161名	26名	11名	13名	1名
比 率	100.0%	75.9%	12.3%	5.2%	6.1%	0.5%

《学会賞基金について》

安平昭二顧問から、学会賞基金のご提供のお申し出があり、お受けすることとなりました。なお、具体的な運用方法等は、今後検討することとなっております。

《平成16・17年度研究部会の募集》

平成16・17年度の簿記理論研究部会、簿記実務研究部会、簿記教育研究部会を募集いたします。

研究部会の募集についての詳細は次のとおりです。

- (1) 研究期間は第20回全国大会(平成16年)会員総会承認から2年です。
- (2) 研究成果の報告は、1年経過後の第21回全国大会(平成17年)における中間報告および第22回全国大会(平成18年)における最終報告の2回となります。
- (3) 研究成果につきましては冊子を作成していただきます。
- (4) 研究部会費は1部会200,000円(1年間)です。
- (5) 研究部会メンバーは当学会会員とします。
- (6) 研究部会メンバーの人数に制限はありません。

平成16・17年度研究部会のお申し出は、研究テーマ・メンバーを明記の上、事務局宛にお願いいたします。

日本簿記学会第19回関東部会記

準備委員長 長谷川 茂
早稲田大学

日本簿記学会第19回関東部会は、平成15年6月21日(土)午後1時より、早稲田大学大隈講堂にて約130名の会員の参加を得て開催された。準備委員長から、歓迎の挨拶とともに、今回の統一論題「簿記検定試験制度と簿記教育」の趣旨について説明があった後、片山覚氏(早稲田大学)の司会のもと、報告が行われた。各報告者の論題と要旨は次の通りである。

(1)川村義則氏(早稲田大学)・増子敦仁氏(東京国際大学)「簿記教育に関する職業会計人の意識調査」:任意抽出の公認会計士1,000人に対し、日商の出題区分表に基づいた55の学習項目について今春行ったアンケート調査の結果と分析の説明がなされ、それを踏まえて簿記教育の将来の方向として、実務へのその適合性増進のため、実務動向の継続的な追跡と教育現場への還流という循環の仕組みを作る必要性を指摘された。

(2)齋藤真哉氏(青山学院大学)「簿記検定試験制度の社会的意義と教育への影響」:検定試験制度の社会的貢献を、具体的資料を用いて明らかにした後、簿記の理論面、実務面、あるいは教育面などから見たその問題点を指摘された。そして、その改善策として、検定試験制度については、出題内容のパターン化や実務との乖離などを避けるための方法を、また簿記教育については、会計諸基準の複雑化や会計情報利用者の多様化などに対応できる、検定試験制度を念頭に置いた教育の仕組みを、具体的に提言された。

(3)野々山隆幸氏(横浜市立大学)「簿記教育とeラーニング」:五つの試験制度のWebページ上での情報公開を、いくつかの視点から比較検討した後、近年のめざましいIT化のもとでは、受験勉強も含め簿記教育でも、eラーニングの積極的活用が必要との認識に立って、eラーニングの特徴、学習パターン、横浜国立大学での事例、および報告者も関与して作ったコンテンツなどについて紹介されるとともに、今後の課題や方向についても考えを述べられた。

(4)泉本小夜子氏(公認会計士)「会計士から見た簿記教育」:経理実務と簿記教育の乖離を実例で明らか

にした後、その原因とみられている試験制度のうち会計士二次試験を取り上げ、日本公認会計士協会の後進育成委員会で毎年実施のアンケート調査の結果を用い、主に簿記論の短答式について分析し、質と量の両面で出題内容に難点があることを指摘され、総合的な応用能力が必要な会計士にとっては、簿記・会計の基礎知識が重要なので、その方向での改善を提言するとともに、改正試験制度への期待も表明された。

午後3時半より、片山氏を座長に統一論題の討論が行われた。まず、コメンテーターの玉川弘文氏(都立桐ヶ丘高校)、新田忠誓氏(一橋大学)、渡部裕亘氏(中央大学)からコメントがあり、さらに、大藪俊哉氏(帝京大学)、安藤英義氏(一橋大学)、木内一氏(長野県東部高校)、寺田誠一氏(公認会計士)、山本巖氏(公認会計士)から質問や意見が出され議論が深められた。

午後5時20分より、大隈ガーデンハウスで約90名の会員参加のもと懇親会が行われ、会員相互の親睦が深められた。席上、萩野雅司氏(高崎商科大学)から8月末開催の全国大会について挨拶があった。なお、懇親会には、戸田博之会長からワインの寄贈があったことを記し、謝意を表したい。

最後に、前年度の部会開催校と白桃書房が作った部会開催の準備作業マニュアルを利用させていただき、作業負担が大幅に軽減された。関係の皆様にお礼を申し上げたい。



日本簿記学会第19回全国大会

準備委員長 萩野雅司
高崎商科大学

日本簿記学会第19回全国大会は、平成15年8月30日(土)と31日(日)の両日にわたって、高崎商科大学において開催された。東京から離れた交通の便の悪い所であったが、280余名の参加者があったことは当番校として喜びであった。

第1日目は、会員総会に続いて、研究部会報告が行われた。原田満範氏(岡山商科大学)の司会により、簿記教育研究部会『簿記教育におけるE-Learningの有効性に関する研究』(部会長・木本圭一氏(関西学院大学))、簿記実務研究部会『工業会計システムの現状と課題』(部会長・山田庫平氏(明治大学))の報告が、つづいて、長谷川茂氏(早稲田大学)の司会により、簿記理論研究部会『偶発事象の簿記処理』(部会長・山下寿文氏(佐賀大学))、簿記教育研究部会『勘定科目に関する研究』(部会長・新田忠誓氏(一橋大学))の報告が行われた。これら4報告はいずれも中間報告である。

研究部会報告につづき、統一論題『日本産業の近代化と簿記』のもとで、安藤英義氏(一橋大学)の司会により、石原裕也氏(高崎商科大学)が『官営富岡製糸場への複式簿記導入時における会計について』、清水泰洋氏(神戸大学)が『近代日本企業の成長と簿記-兼松にみる記帳システムの変遷-』、小野寺敏郎氏(税理士)が『漁業簿記の現状と課題』、西川登氏(神奈川大学)が『近代化過程における西洋式簿記法の導入と在来簿記法』の報告を行なった。

このあと、18時からホテル・メトロポリタン高崎で、懇親会が盛大に行われた。

第2日目の午前中は、つぎの3会場に分かれて自由論題報告が行われた。第1会場：前半・司会 中島利郎氏(有坂中央学園)、後半・司会 床井睦子氏(東京都立短期大学)、第2会場：前半・司会 高山朋子氏(東京経済大学)、後半・司会 松原成美氏(専修大学)、第3会場：前半・司会 山岸宏政氏(上武大学)、後半・司会 伊藤清己氏(愛知大学)。

自由論題と平行し、初めての試みとして、非会員も含めた高等学校教員を対象とした特別企画『高等学校

における簿記教育問題懇談会』を、座長・粕谷和生氏(横浜市立横浜商業高等学校)、加瀬きよ子氏(東京都立第一商業高等学校)、コメンテーター・新田忠誓氏(一橋大学)により、大学の協力を得て催した。この催しののち学会に賛同した教員の入会があった。

午後は、地元市町村の協賛を得た公開講演会『日本の近代化と富岡製糸場』(講演者・今井幹夫氏(富岡市立美術博物館館長))が、前会長・大藪俊哉氏(帝京大学)の司会により行なわれた。

その後、前日の統一論題に対する討論が行なわれた。質問用紙16枚という多くの質問が寄せられたために、通例行なわれている会場での質問の意図を確認することは不可能となり、安藤座長の整理の下に討論が進められた。

本学はスタッフが少ないうえに、部会開催経験のある一橋大学の新田ゼミ出身・溝上達也氏(松山大学)、神納樹史氏(上武大学)、新田ゼミ・吉田智也氏(修士課程)、佐々木ゼミ・西山一弘氏(博士課程)西館司氏(修士課程)の5氏の応援を得た。大会の企画から運営に到るまで何かとお心配りをいただいた新田忠誓理事にはもちろんのこと、5氏には大会案内状や報告要旨集にお名前を掲載できなかったこともあり、この場をお借りしてお礼を申し上げたい。多くの準備作業のために、事務局の白桃書房の親身な協力を得られた。また、今回から大会開催用の備品が揃えられていたことも有難かった。4年制大学開学3年目の本学会員の皆様方のご支持を得て無事、大会を終了できたのは、これらの方々のお陰であると感謝している。

最後に、当日参加者が大きく予想を超えたため、資料の手配についてご迷惑をかけた会員の皆様には改めてお詫び申し上げます。



2002年9月7日以降、2003年8月28日までに申し込まれ、8月29日開催の理事会で入会が承認された新会員は次のとおりです。

入会会員名簿

(名簿の番号は会員番号)

番号	氏名	所属機関	番号	氏名	所属機関
2003-001	船越洋之	湘北短期大学総合ビジネス学科	2003-026	泉本小夜子	監査法人トーマツ
2003-002	神田聖人	神田聖人税理士事務所	2003-027	丸田起大	北海道大学大学院経済学研究科
2003-003	長吉眞一	立正大学経営学部	2003-030	門田隆太郎	公認会計士
2003-004	阿部仁	福山大学経済学部	2003-032	岡崎尚靖	学校法人田北学院
2003-005	溝上達也	松山大学経営学部	2003-034	野口雄平	神奈川県立小田原城東高等学校
2003-006	岸田賢次	名古屋学院大学商学部	2003-036	小林伸行	小林公認会計士事務所
2003-007	古市義策	千葉県立千葉商業高等学校	2003-037	岩崎豊	東京都立赤羽商業高等学校
2003-008	内野一樹	立教大学経済学部	2003-038	森本和義	岡山商科大学
2003-009	青山学	新潟県立新発田商業高等学校	2003-039	市村巧	岡山商科大学商学部
2003-010	白鳥一	全国高等学校教頭会	2003-040	川本和則	岡山商科大学商学部
2003-011	堀川三好	高崎商科大学流通情報学部	2003-041	橘晋介	岡山商科大学商学部
2003-012	木村良成	法政大学キャリアデザイン学部	2003-042	山本展雅	東北学院大学経済学部
2003-013	神納樹史	上武大学経営情報学部	2003-043	名越隆雄	北海道税理士会
2003-014	中村恒彦	桃山学院大学経営学部	2003-044	上野正人	上野正人税理士事務所
2003-015	桂信太郎	土佐女子学園土佐女子短期大学	2003-045	百瀬房徳	獨協大学経済学部
2003-016	青柳薫子	香蘭女子短期大学			
2003-017	吉田眞友	大阪市立喜連中学校	2003-025	若杉千鶴	明治大学大学院経営学研究科
2003-018	今井智之	愛知学院大学大学院経営学研究科	2003-029	梅田勝利	東亜大学大学院
2003-019	吉岡一郎	滋賀女子短期大学ビジネスコミュニケーション学科	2003-031	山内暁	早稲田大学大学院商学研究科
2003-020	小野寺敏郎	税理士	2003-033	衣川修平	九州大学大学院経済学府
2003-021	金子良太	早稲田大学商学部	2003-035	田中涉	明治大学大学院商学研究科
2003-022	山下正喜	熊本学園大学			
2003-023	島永和幸	神戸大学大学院経営学研究科			
2003-024	高橋聡	西南学院大学商学部	2003-028	甲府市立甲府商科専門学校	

事務局からのお知らせ

《会費振込のお願い》

本年度(2003年度)の会費を未納の方は、下記宛に早急にお振り込みください。

口座番号 00150-8-178771 加入者名 日本簿記学会
《事務局への問い合わせについて》

事務局への問い合わせについては、連絡事務所にお問い合わせいたします。

《住所・所属の変更について》

住所・所属の変更があった場合は、会費振込時に振替用紙にお書きいただくか、連絡事務所に書面にてお知らせ下さい。

編集後記

第19回日本簿記学会全国大会が8月に高崎商科大学で行われました。会員総会では、今年度から新たに財産目録が追加された収支決算書が示され、その関係から収支予算(案)においても助成基金を中心とした会計処理の変更が行われました。また、選挙内規の改正が必要なこと、学会

賞基金が設けられるようになったことから、戸田会長を中心に現在これらの原案を検討中です。理事の諸先生の役割担当が明確になったことにより、さまざまな試みや改善が現役員体制のもとで行われています。

簿記学会の運営がより円滑に進み、学会がより一層発展しますよう、幹事一同、微力ながら精進して参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(泉・桑原・高須・千葉・菱山)

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail boki@hakutou.co.jp